

「90歳以上の超高齢者患者の ERCP 関連手技の安全性の検討：JCI 以前と JCI 以後の安全性の変化」

1. 研究の対象

2011～2017年9月末までの90歳以上の患者：241例

2. 研究目的・方法

近年当院では胆膵疾患に対する ERCP 関連手技を必要とする症例が増加の一方であると同時に、高齢患者が非常に増えている。特に90歳以上のいわゆる超高齢患者が多くなってきている傾向である。ERCP は内視鏡手技の中でも難易度が高く、疾患が ERCP を多数行っている high volume 施設に集中する傾向であるが、当院では超高齢であっても JCI 基準に則って治療を行っているが、過鎮静、転倒、術後転倒、重大な合併症など実際のデータがどのように変化しているかを検討し、当院の場合 JCI 基準が導入されたことで、JCI 以前と JCI1 期、JCI2 期を比較して、患者背景、治療内容、合併症等がどう変化したか？、超高齢者の ERCP 治療を行う上でのリスクは何かを知る必要がある。JCI という他施設にない非常に厳しい基準の下で ERCP を含めた内視鏡検査を行っているため、当科のデータを発信することは非常に意義のあることと思われる。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

電子カルテから得られる、対象患者の患者背景（性別、年齢、疾患背景、既往歴）、治療内容、検査データ、経過、合併症、合併症の治療等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：

済生会熊本病院 消化器病センター 浦田淳資

TEL:096-351-8000 (代)

以上